

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400051		
法人名	医療法人社団慈生会		
事業所名	グループホーム 華房 福栄		
所在地	山口県萩市大字福井下3507番地の1		
自己評価作成日	平成24年 5月	評価結果市町受理日	平成24年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 24年 6月 8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、それぞれの有資格者であり、専門性を活かし、入居者様に対して、いつも柔軟な対応ができるよう心掛けている。又、法人である医療機関とも連携を図り、食事面では、栄養士がそれぞれの疾病に合わせた食事を考え、栄養バランスの取れた献立を作成し提供している。これらのことで、ご本人や、ご家族にも安心して頂けるよう支援している。食事は三食とも事業所で調理しており、調理の際のにおい、食材を切る音等、五感を刺激することで、家庭的な雰囲気に繋げている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者の尊厳ある生活と地域社会とのつながりを大切にする」という事業所の理念に沿って、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底され、利用者のその人らしい尊厳ある姿や生活を大切にされた支援をされています。地域とのつながりを大切にされるため、今年度から自治会に加入しておられ、地域のスポーツ大会や清掃作業に職員が参加されたり、地域のボランティアの来訪や、事業所だよりを地域に配布されるなど、地域との関わりが深まるように取り組まれています。三食とも事業所で栄養士を中心に食事づくりをしておられ、利用者の希望を取り入れたものや、旬の食材を使用した季節感ある栄養バランスのとれた食事を提供され、利用者も食事を楽しみにしておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の玄関、事務所に理念を掲示すると共に職員の名札の裏にも入れ、職員全体で理念を共有している。又、新人研修も実施され、理念の実践につながるよう努めている。	地域密着型サービスとしての理念をつくり、事業所内に掲示する他、名札に記載して、全職員で共有し実践につなげている。日常業務の中で課題が発生した時は、その都度、理念に沿っているかを確認し、ケアの向上に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より、地域の自治会に入会することができ、5月には、地域で催されたスポーツ大会に参加することが出来た。まだまだ、地域との交流は難しいが、事業所を通じての交流やボランティアの催し物にも声を掛けて頂き、地域との交流を深めていけたらと思っている。	自治会に加入し、職員は地域のスポーツ大会や清掃作業に参加している。ボランティア(踊り、大正琴、カラオケ)の訪問があり利用者で交流している。事業所への理解を得る取り組みとして、2ヶ月ごと地域(30戸)に事業所だよりを配布し、地域との関わりが深まるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に2か月に一度「施設だより」を配布し、施設の活動報告、介護のワンポイント・アドバイス等を掲載している。研修等は、現在は実施していない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者を中心に、職員全体に評価の意義を伝え理解してもらい、職員全体の意見をまとめる。評価結果を受け止め、今後の改善策を話し合い、今後のケアに活かせるよう、取り組んでいる。	職員は評価の意義を理解している。管理者、副管理者を中心に話し合いを重ね、自己評価したものを全職員が閲覧し、共有している。前回の外部評価結果については事故対応の研修の実施や自治会への加入など具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に、行政、民生委員、地域の介護支援事業所、家族、職員で、利用状況、活動報告を報告し、参加者より、意見、要望を聞く。年2回、消防関係の方の参加の呼びかけをし、避難訓練、災害時の避難方法についての意見交換をし、サービスの向上に役立っている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況、活動、外部評価結果などについて報告し、意見交換をしている。消防団員の参加や、課題であった自治会への加入ができるなど、意見をサービスの向上に活かしている。	

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用状況の報告、介護保険の更新認定手続き時、連絡や、必要書類の依頼等、協力を頂いている。又、毎月1回、地域ケア会議では状況報告を行い、情報の提供をして頂いている。	市の担当者(支所)とは日頃から連絡を取り、情報交換や相談をし、助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。月1回の地域ケア会議に出席し、事業所の状況報告をする他、困難事例等について意見交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成している。法人が開催する委員会の研修にも参加し、研修内容を報告し、職員全体で内容を理解したうえで共有している。現在、玄関の施錠はしているが、入居者様の動向、原因を把握し、気分転換等、ケアの工夫に努めている。	マニュアルがあり、法人の身体拘束虐待防止委員会の研修に参加し、全体会議で共有して身体拘束をしないケアに努めている。職員は、鍵をかけることの弊害を理解しているが、現在は安全のため玄関の施錠をした状態である。	・鍵をかけずに安全に過ごせる工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の委員会にも施設より参加し、報告、研修の呼びかけをし、職員全体で共有している。日頃より入居者様を観察し、見過ごされていることなく、虐待があってはならないこととして、職員はケアに当たっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護が必要な入居者様は居られないが、後見人制度の研修等に参加し、職員全体に周知できるようにしていく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要説明事項に沿いながら、当事業所で出来ること、出来ないことの説明はしている。重度化、看取りについての対応、医療機関との連携体制について説明し、家族の理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での問い合わせ、面会時、運営推進会議への参加等で、意見や要望が聞けるような体制を取っている。自由に意見が聞けるよう、意見箱の設置、苦情相談窓口外部機関を明示、苦情相談手続きを定めている。第三者委員は、選任していない。	運営推進会議時や電話、面会時の他、利用料支払いのため、月1回は家族の訪問があり、その都度、家族から意見や要望を聞き、運営に反映させている。相談苦情の受付体制や苦情処理手続きを定め周知している。意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回開催する職員全体会議で、職員からの意見や、情報交換をしている。又、勤務異動は、在宅療養支援部内で行い、今年度より、副管理者体制を設け業務の中で意見が気軽に出来るように心掛けている。	月1回の職員全体会議の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。年1回個人面談があり、その場でも聞いている。行事の企画を提案するなど、運営に反映させている。	

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も常に現場に出て、勤務状態の把握、職員の資格習得に向けて支援、環境づくりに努めている。健康診断は年2回実施されており、心身の体調管理も配慮されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会に参加したり、事業所内では、職員会議の後に、それぞれの専門性を活かした研修や、担当制で15分程度の勉強会を計画、実施している。又、外部研修は、勤務の一環として考え、研修内容の復命をし、回覧できるようにしている。	外部研修の情報を提供している。職員の参加は1名である。法人内研修に参加できない職員は、研修で使用されたDVDを業務内(昼食後等)に視聴し、自主研修としている。職員全体での研修は十分とはいえない。	・研修の機会の確保と内容の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との連絡、調整が難しく、実践に繋げることがなかなか出来ない。研修終了後、名刺交換を行い、他事行所の訪問を委ねたりという取り組みはしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを充分にお聞きし、又、不安を解消していただく為、事前に見学して頂いたり、都合がつけば、訪問させていただく等、安心感を持って頂けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の想いと家族の意見が食い違う時は、充分に説明を行い、入居者様の最善な方法を一緒に考え、信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを充分にお聞きし、状況を見極め、必要とする支援を介護支援専門員を中心に、主治医、地域包括センターと連携し、検討していく。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な生活環境の中で、出来ることを見極めながら、役割分担をし、皆で協力しながら、出来るだけ自立に近づけるような環境づくりに努める。		

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料支払い時、面会時に時間を作って頂き、入居者様の状況、要望をお聞きし、支援していくのに何が必要なのか、共に考えて頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂いて、理髪店、食事などに出掛けたり、日常会話の中から、馴染みの場所、自宅周辺のドライブに出かけたり、知人、友人にも立ち寄って頂けるように心掛けている。	教え子や知人、友人、協会の人などの訪問がある。受診の帰りに、自宅周辺や市内を回ってドライブしたり、訪問理美容の人との馴染みの関係ができています。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や外食など、関係が途切れないように支援しています。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりのレベルや、性格を十分に理解した上で対応している。又、トラブルが起こった際には、職員が介入し、関係の修復に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に移行されたり、在宅生活の為退去される入居者様に対し、情報の提供を充分に行い、次のサービスが、スムーズに受けられるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートの作成や、家族からの情報を参考にし、日頃の生活の中からの言動を、ケア記録や、ケース記録に記入し、思いや、意向を把握するよう心がけ、職員間の情報も共有しケアにあたっている。	アセスメントシートを活用し、1年ごとに課題を分析し、利用者の生活の様子、身体状況、本人の要望などを詳細に把握している。日常の関わりの中での利用者の言葉や言動をケース記録に記録して思いの把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、他の事業所からのフェースシートや、元担当ケアマネからの情報で、生活歴、趣味、職歴の情報を得ている。又、家族や知人の面会時にもお話をお聞きしながら、それらの情報を把握、分析しながら、これまでの環境に近づけようと努めている。		

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の食事の様子、摂取量、睡眠、排泄状況、言動、サービス項目、体調の変化を、ケア記録、ケース記録に細かく記入することで、全職員が把握し、心身機能の低下防止に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎に、職員の担当制を設け、介護支援専門員と共に、入居者様、ご家族からご意見、要望をお聞きし、全職員の意見を参考にしながら、介護計画を立てている。1ヶ月毎の評価、モニタリングを行う。	介護計画作成時には、利用者の担当職員から聞き取った利用者の意向や状態、日頃の様子その他、日々のケース記録、家族からの要望、ミーティング時の職員の意見などを参考にしながら介護計画を作成している。日々の実施記録をつけて、毎月のモニタリングや3ヶ月毎に評価を行い、介護認定期間に応じた見直しや状況の変化に合わせて、その都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し、行動や、反応、言動、それらのことに対する対処方法をケース記録に記入し、モニタリングに繋げるよう、2週間毎に評価を記入、朝、夕のカンファレンス時に、状況を報告し、把握する。3ヶ月毎に、介護計画の見直しをする。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に合わせた外出、天気の良い日にはドライブに出掛けたり、定期健診以外にも体調不良時には、医療機関に受診したりして、不安の解消をしている。又、要望があれば、買い物等、柔軟な対応に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容店の利用、JA生活センター等に買い物に出掛けたりはするが、他の社会資源の発掘は出来ていない。		

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族に同意を得て、かかりつけ医、協力医を決めており、通院介助を行っている。他の医療機関の受診が必要なときには、紹介状を依頼し、スムーズに受診が出来るよう支援している。又、夜間や緊急時には、法人の医療機関での受診が受けられるようにしており、安心して頂いている。	利用者や家族の納得を得て、協力医療機関（法人の医療機関）をかかりつけ医としている。月1回の受診や夜間、緊急時の受診の支援の他、看護師が常勤しており、日々の健康管理をしている。協力医療機関以外の受診についても必要に応じて対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間の記録をし、朝、夕の申し送り時に、状況の変化を報告、看護職員、介護職員ともに、対応法を検討し、場合によっては主治医に相談しながら、適切な対応が行えるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の医療機関とも連携しており、家族は安心されている。面会や家族からの情報収集に努め、医療機関、家族、入居者様、事業所を交え、十分に検討し、今後の方針を決めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合や、終末期のケアに関しては、入居者様や、ご家族に説明し、了承を頂いている。医療的な処置が必要な場合は、法人の医療機関とも連携を取りながら適切な医療が受かられるよう支援している。	重度化や終末期に向けての事業所の対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医、家族、職員とで何回も話し合い、方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告、ヒヤリはっと報告書を整備し、記入、職員全体で改善策を検討、内容によっては法人のリスクマネジメント委員会にも参加し、ケア会議での改善策を検討するなどし、入居者様一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。又、全職員対象に初期対応の応急処置の研修も予定している。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、その場にいる職員で対応策を話し合い、会議で検討して、介護計画に反映させるなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。全職員を対象にした応急手当や初期対応の訓練の実施までには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策のマニュアルがあり、年2回、夜間想定訓練を日中、実施している。地元の消防団の方に定期的に運営推進委員会に出席頂き、ご協力を仰いでいる。避難訓練終了後には、消火器の使用法の研修も行っている。現在、災害マニュアルの作成に取り組んでいる。	年2回、夜間想定を含めた火災時避難訓練を実施している。運営推進会議時消防団員の参加を得て、防災について話し合っているが、火災時に於ける地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルは、施錠つきの書棚に保管している。法人主催の接遇研修に参加し、接遇のあり方について職員全体で、日々見直しをし、入居者様に対しての対応に気をつけている。不適切な場合は、管理者が指導している。	利用者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。不適切な言葉かけや対応に気づいた時は、その都度管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と共に生活し、行動することでコミュニケーションを取りながら、信頼関係が持てるように努めている。言語障害や、聴力障害のある入居者様に対しては、非言語的表現を取り入れて、入居者様の想いが聞きだせるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分等を十分に配慮し、個人の思いを尊重し、散歩やレクリエーション等、柔軟な対応に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の利用は、馴染みのところに行ける様、ご家族にご協力を仰ぎながら実施している。又、地域の理美容院に要望があれば取りまとめ、来訪してもらっている。日常では、ご本人に会ったおしゃれが出来るようアドバイスをしている。		

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士がカロリー計算や、栄養バランスを考え献立を作成し、三食共、事業所で調理し、提供している。又、家族からの差し入れや、施設敷地内で収集したもの、季節感を感じる食材を用い、五感が刺激されるような環境を作っている。職員も同じテーブルを囲み楽しく食事をし、後片付けや、テーブル拭きは入居者様が手伝われている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。事業所の栄養士が、利用者の好みを取り入れたものや栄養バランス、カロリーを考慮して献立を作り、差入れの野菜や、敷地内で採れた山菜なども利用する他、季節感のある新鮮な食材を使用して調理している。利用者は、野菜や山菜の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、お盆拭きなどできる事を職員と共にしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話しながら、食事が楽しめるように支援している。誕生日会には、本人の希望する料理を提供したり、弁当を持参して戸外に出かけて食べるなど工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様お一人ひとりに合わせた食事形態や、その日の体調を考慮して献立し、食事を調整している。法人の医療機関とも連携し、栄養士の指導のもと、飲水量、栄養値、摂取量を検討している。水分摂取量、食事摂取状況の記録を残している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄の声掛け、介助を行い残渣物のチェック、義歯確認等を行い、口腔内の清潔を保っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、紙パンツや、夜間のみベットサイドにポータブルトイレを設置している。排泄チェックにより、時間を見計らいながら声掛け、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。汚染時には、プライバシーを配慮し交換を行い、清潔保持に努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない言葉かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を確認し、散歩、体操等、適度な運動を心がけ、食材の工夫をして穏やかな便通があるようケアをしている。排便困難な入居者様に対しては、主治医に報告、指示を仰いでいる。		

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個別の入浴を実施しており、羞恥心や、プライバシーの保護に配慮している。入浴は隔日で午後2時よりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。又、その日の体調や、汚染時には調整を行い柔軟な対応を心掛けている。	入浴は、1日おきで、14時から16時まで可能であり、希望すれば毎日でも入浴できるように支援している。入浴は利用者の状態に合わせて、ゆっくり楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調設備、換気機能、加湿器等を利用し、室温や、湿度を快適に保ち、ソファを置き、いつでも休息出来るよう整備したり、個室で気持ちよく過ごせるよう環境整備をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬情報を薬局より頂き、個人ファイルに綴じ込み、内容が一望出来るようにしている。服薬は個人に手渡し、服薬を確認、又は、服薬の介助をしている。服薬変更時は、状況を観察し、状況の変化を報告し、連携を取っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴より、趣味、嗜好を考慮し、日常生活の中で自分の部屋の掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ袋作りの手伝い等、活躍できる場を作り、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。又、新聞を読んだり、歌唱、散歩など気分転換が出来るよう支援している。	テレビ視聴(のど自慢、歌番組、時代劇、相撲など)、新聞や本を読む、書写をする、季節ごとの飾りづくり、ラジオ体操、歌体操、風船バレー、カラオケ、カルタ、トランプ、掃除、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの楽しみごとや、活躍できる場面を多くつくり、利用者一人ひとりが張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	不穏な状態や、興奮状態が見られる時、一人ひとりの状況に合わせてなじみの場所や、住み慣れた自宅周辺のドライブ、通院帰りに希望されるルートで帰ったりしている。又、家族の協力を得て、外食、ドライブ、理美容院などに出掛けられるよう支援している。	利用者の希望や体調などに合わせて、散歩やドライブ(花見、リンゴ狩りなど)に出かけている。受診時に自宅周辺を通ったり、市内をドライブするなど戸外に出かけられるように支援している。家族の協力を得て外食や馴染みの美容院に行っている。	

グループホーム華房福栄

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と相談し、預かりの合意を得て預かり金を保管している。外出や、買い物に出かけられる際には見守りのもと、ご本人が支払いが出来るような体制を取っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お一人ひとりの能力や、聴力に合わせて電話の取次ぎをしている。又、年賀状や、暑中見舞い状の希望があれば、書き方の助言、差し出す支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには季節の花を飾ったり、自然な採光や、風が取り入れられるよう天窓を開けたりして調整をしている。玄関、トイレ、浴室、居室、食堂も同一線上にある。中央にはソファが設置してあり入居者様同士がゆっくりくつろげるよう工夫している。	共有空間は天井が高く、広々として明るく、トールペイントの作品や季節の花が飾ってあり、天窓からは、自然の明かりが差し込み、天窓を開けると自然の風が入り、換気の調整ができる。玄関から見渡せるリビングには大きなテーブルやテレビ、ソファが配置あり利用者がゆっくりとくつろげるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファを置き、それぞれが好きな場所でくつろげるように環境整備をしている。テーブルの配置や、席の位置など、気の合う入居者様同士が楽しく語られるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、今まで使われていた家具や、趣味の道具などを持ち込んで頂き、在宅の環境に近づける工夫をしている。又、家族の写真や、絵、入居者様の手作りの作品の掲示をして、落ち着いた環境づくりに努めている。	ベッド、小ダンス、衣装ケース、籐椅子などを置いたり、家族の写真、絵、人形、手づくり作品などを飾り、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のお一人ひとりの行動や、身体機能、生活環境、能力に合わせて、居住環境を工夫しながら安全の確保を十分に考慮した上、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム華房福栄

作成日：平成 24年 10月 18日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	鍵をかけないで、安全に過ごせる工夫	身体拘束をしない取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関の鍵の開錠（見守りの為、防犯ブザーを取り付ける）</li> <li>・入居者様の動向、原因を把握し、気分転換の為、散歩、買い物、ドライブ等を試み、行動を共にする。</li> </ul>	実施しています
2	35	全職員を対象にした応急手当、初期対応の定期的な訓練	急変や、事故発生時に備えて、応急手当、初期対応の訓練をすることで、実践力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内で起こりうる事故に対しての定期的な訓練の実施（施設での年間研修に組み込む）</li> <li>・マニュアル、連絡方法の作成をする。</li> </ul>	12ヶ月
3	36	地域との協力体制の構築	地域の住民の皆様にも、施設の性質を理解して頂く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設だよりの配布の継続</li> <li>・住民の皆様に参加しやすい行事のお知らせ（施設だよりの呼びかけ）</li> <li>・運営推進会議等で、防火訓練などの呼びかけ、又は、参加いただける住民の皆様を募ってみる</li> </ul>	12ヶ月
4	14	研修の機会の確保	外部研修、法人内研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の研修は、DVDによる、自主研修が多い。必要と思われる研修には、出向いていく。</li> <li>・外部研修は、必要と思われる研修内容が少ない。出来るだけ必要と思われる研修には参加していく。</li> </ul>	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。